歴史の道をゆく
the history of road
来満街道 ①

来満街道の三つのルート

来満街道は鹿角と三戸を結んだ街道で、幕府巡見使や南部藩主が領内巡察などの際に通り、尾去沢鉱山の銅を野辺地湊まで運ぶ輸送路でもあった。

藩政時代、鹿角側からは「奥筋往来」、「三戸往来」などと記され、青森側からは「鹿角街道」とも呼ばれた。ちなみに、盛岡や秋田側で一般に「鹿角街道」といえば、盛岡側から湯瀬を経て鹿角を通り大館付近で羽州街道に至る道を指す。

来満街道という名称そのものは明治12年、この道路が秋田県で整備すべき19の指定路線に含まれた時が最初といわれ、それより以前は、来満山を越えて大湯（現・鹿角市大湯）と田子（現・青森県三戸郡田子町）を結んだという意味で「来満越え」が通称だったようだ。

来満越えの道には、最も古くからの本街道である大柴峠ルートと、比較的新しく開かれて不老倉鉱山の輸送路や生活道路として機能した脇道の来満峠ルート、および不老倉峠ルートの三つがあった。まずは大柴峠越えのルートを辿ってみよう。

花輪から毛馬内 錦木塚まで

鹿角市の中心部・花輪を北上して松の木地区に入ると、現在の自動車道路はT字路になっている。左が大館方面、右が大湯方面だが、T字路の少し手前左手に、店と民家にはさまれた細道が残っている。これが、盛岡側から湯瀬、花輪を経て大館に向かう鹿角街道の本来の道筋だったという。つまり、この細道の角こそ来満越えの起点といえようか。来満街道は自動車道路のT字路を右折するのではなく、正面にある駒形神社の左脇の小道を進む。境内には一里塚の榎、社殿前の左手には1・7mほどもある陽根（金勢様）がある。

街道をはさんで左手には、大正15年に旧室田村の人々が建てた庚申塔がある。神社脇の道は小さい坂を下り、東北自動車道の西側に出てから大きく右にカーブし錦木塚の横に向かっていた。高速道路によって一部とぎれているが、大筋は辿ることができる。

錦木塚の横の道端には、享保16年（1731）建立の「道しるべ石」がある。有縁無縁供養塔を兼ねた珍しいもので、「左けまない道」「右にしき木」の刻字。かつては、この場所より少し坂下の旧道脇にあったようだ。悲恋伝説が残る錦木塚は、平安時代以来多くの歌に詠まれた歌枕の地である。幕府巡見使もここに立ち寄って休憩し、地元の代表が塚の由来を説明して、特産の細布（狭布）「けふの細布」を献上するならいだったという。

錦木塚から大湯川の渡しへ

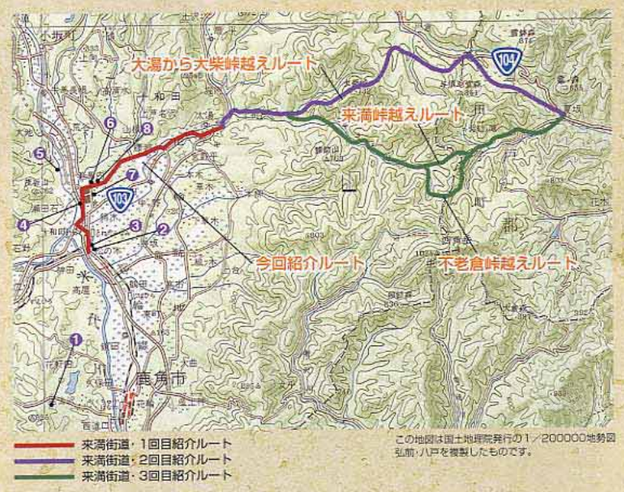
錦木塚を過ぎたルートは現国道282号と重なりながら北上、大湯川を渡る。江戸末期は川の中の所々に木枠を置いて石を詰め、巨材を架けて橋にしていたらしい。川を渡って国道から左に外れ、川沿いのたんぼの中に下って陣場平に上り、再び右手の国道に重なって毛馬内へ。この区間の道筋の大半は失われている。

誓願寺前を過ぎ、T字路を右折した道の突き当たりの角が制札場跡で、標柱が立っている。その奥が、慶長年間に南部藩主・南部利直の命令で築かれたという桜庭氏の居館・柏崎館の跡である。毛馬内の旧街道は萱町から本町に入り、下小路を経て仁叟寺前に出ていたという。

現在では裏通りの感じになるが、武家屋敷町には藩政時代の趣が今もわずかに残り、鹿角地方に残る最古の武家屋敷という宝暦元年（1751）築造の伊藤氏宅が往時をしのばせる。すぐそばの先人顕彰館の隣は旧・和井内邸跡。十和田湖のヒメマス養殖に成功した和井内貞行（1858～1922）は、ここで生まれた。

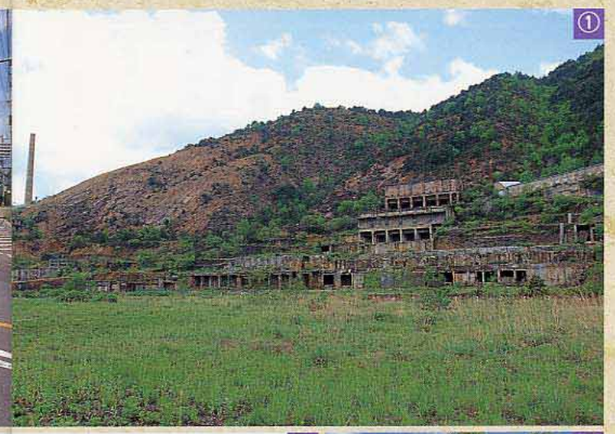
仁叟寺の山門や鹿角地方最古という鐘楼には、風格が漂う。街道は仁叟寺横の「寺の坂」を上って台地上に出る。坂の途中で今の自動車道からやや左にそれ、歩道階段のある辺りを急坂で上り民家前の旧道に出るのが街道の道筋だった。上ってすぐの旧道の三叉路に古い柳があり、大青面金剛と庚申塔がひっそりと佇んでいる。

街道はこのあと、蟹沢地区の裏手を経て腰廻に向かい、大湯川を舟で渡って大湯に入っていた。急流だったためか、相当の角度で斜めに1km余りもの距離を渡っていたらしい。渡し場への道筋も渡し場も時代により変わったようだ。古老の話では、大正から昭和初期までは、両岸に蔓を渡して舟を手繰り寄せて進む「綱渡し」だったという。



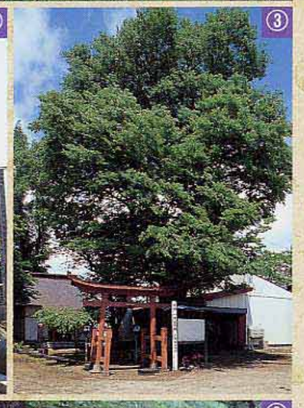
この地図は国土地理院発行の1／200000地勢図弘前・八戸を複製したものです。

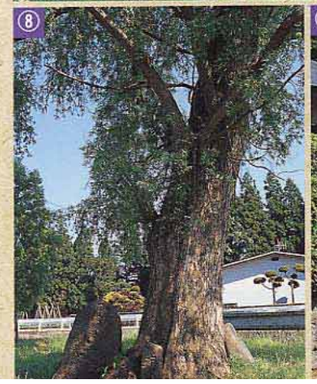
②


①

⑤

④


③


⑧

⑦

⑥

来満街道

①尾去沢鉱山跡（鹿角市尾去沢）
来満街道を通じての産物取引は古くから盛ん。尾去沢鉱山の銅も、鹿角から来満峠を越えて三戸を経て野辺地湊へと運ばれた。

②松ノ木追分（鹿角市十和田錦木）
来満街道と鹿角街道の分岐するところ。ここでは北の古川、西の秋田領、南の花輪方面へと、三方に道が分かれていた。

③駒形神社（鹿角市十和田錦木）
かつて神社周辺には種々の金勢様が並んだという。江戸年間、ここを通った菅江真澄や松浦武四郎がその光景を書きとめている。

④誓願寺千手観音堂（鹿角市十和田毛馬内）
誓願寺は、享保10年（1725）現在地に移転した。境内には、台座共で165cmの木造の千手観音立像が鎮座する観音堂がある。

⑤月山神社の奉納碑（鹿角市十和田毛馬内）
坂上田村麻呂が、戦勝祈願のため勧請したと伝えられる月山神社。境内に立つ碑には「一反五畝六歩　毛馬内商人一同」の文字。

⑥仁叟寺の戊辰戦歿之碑（鹿角市十和田毛馬内）
南部の重臣・桜庭氏の毛馬内入部とともに菩提寺になった仁叟寺。仁叟寺墓地には、戊辰戦争の南部藩戦死者13人を合葬した墓碑がある。

⑦武家屋敷町（鹿角市十和田毛馬内）
仁叟寺向かいを入った先人顕彰館などのある250mほどの直線の通り。左右に緑濃い生垣が連なり、「相馬大作潜伏の地」の標柱も見える。

⑧上野の庚申塔（鹿角市十和田毛馬内）
仁叟寺脇の自動車道路を上りきりすぐ左折したところにある。街道時代の三叉路で、柳の下には庚申塔など三つの石碑がある。